（第７回日本土木史研究発表会論文集　1987年６月）

神奈備山の景観構成

正会員　茨城大学工学部　笹谷康之
正会員　高弥建設　遠藤毅
正会員　茨城大学工学部　小柳武和

Landscape of Kannabiyama

by
Y.SASATANI, T.ENDO and T.KOYANAGI

概　要

古代には、神奈備山と呼ばれ神が宿るとされた信仰対象の山が存在した。全山が樹林におおわれ、笠型の端正な山容を持った山で、集落近くに位置する。その山体や、山を望む場所には、祭祀場、神社が設けられていた。本研究では、この神奈備山の分布、スケール、地形形態を明らかにするとともに、山を祀っていた祭祀遺跡・神社の地形占地・景観的特徴を考察した。その結果、次のようなことがわかった。

①、神奈備山は、東北から九州北部まで広く全国に分布する。

②、神奈備山を祀る神社・祭祀遺跡は、山頂、山腹、山麓と、山を望み山から引きをとった平地の４カ所に立地している。

③、神奈備山は、おおむね比高４００m 以下の小さな山である。

④、神奈備山を祀る神社・祭遺跡は、山を眺望しやすい仰角１４°以下の平地と、山との一体感の得やすい仰角１０°～３０°の山麓に多く立地する。

⑤、神奈備山の景観は平地からは端正な山に見えるが、その地形は、孤立丘、山地端部の端山、山地端部の尾根、等高線が比較的入りくんだ小山塊の４タイプに分類できる。

以上の性質を持つ神奈備山は、日本人の原風景の一つでありまだまだ全国に埋もれていると考えられる。しかし、大都市近郊の神奈備山の中には、開発によって破壊された例もある。古代人が育んできた精神性の強い文化遺産として、神社、祭祀遺跡ともども、神奈備山の景観保全を進めていく必要がある。［キーワード：神奈備山，神社，景観］

１．はじめに

古式豊かな大和の大神神社には、拝殿はあるが本殿はない。拝殿の拝後の三輪山そのものが本殿の代わりに神の宿る場所とされており、御神体とみなされたからである。社殿の建てられる以前の神社は、山、峠、島、湖沼などの自然物が神の宿る場所とされ、そこに存在する巨石・巨木が神の依代と見なされていたのである。こういった日本人のアニミスティックな原始神道の信仰対象となった山、はいずれも、端正な円錐形・笠形をしており、神体山と呼ばれている。

神道考古学の基礎を築いた大場磐雄は、神体山を神奈備型霊山（以下「神奈備山」と記す）と浅間型霊山（以下「浅間山」と記す）に分類した。[1]浅間山は富士山に代表される「雲表に高く聳立する高山大嶽、または噴火現象などを有して、特別に畏敬らせる山々」であり、神奈備山は三輪山に代表される「平地に近い聚落に接して存在する、鬱蒼たる樹林に覆われた小山または丘陵」である。[1]大場による神奈備山の特徴は、以下の三つにまとめられる。[3]

①「聚落の近くにあって、神を斎くに適する清浄な地域を劃する位置を占めていること。」「不浄の多い住居地帯を去り、付近に存する小山がこれ（神奈備山）に適した」

②「山容が付近から目立って、神の占め給う聖地と感ぜられること。」「山容が他とは異なり、多くは円錐形または笠形をなし、独立するかしからざるも明らかに他より区別せらるるを常とする。」

③「全山樹林をもって覆われ、鬱蒼たる緑樹の囲繞すること。」「緑滴る杜こそ、神霊憑伝の象徴」

①からは神奈備山自体はもちろん、その山麓や周辺に築かれた祭祀遺跡、神社のいずれもが居住の場である集落から離れていることがわかる。

②からは神奈備山は孤立丘だけではなく、尾根の先端部であっても三角形の端正な形にみればよいという景観的事実がわかる。

③からは岩肌を見せ、白雪をいだく、浅間山と違い、神奈備山にとって樹林が重要な要素であることがわかる。

この研究を受け、樋口は日本の古代の都・神社などを定量的に把握した。[5] 本研究では、その後の考古学・神道学などの学際的な神社研究の成果を踏まえつつ、神奈備山とそれを祀る祭祀遺跡・神社の景観的特徴を考察する。

2．神奈備山の分布

大場の著作及び神社関係の文献をもとに、神奈備山と記された山を可能な限り収集した。[6] そして神奈備山と関係する祭祀遺跡・神社を、1／25000等の地形図上にプロットし、山頂との間の水平距離、比高、仰角を求めた。この結果をまとめ表1・図1のように、全国で72カ所の神奈備山が抽出できた。

このうち26例、36%が近畿地方に集中している。神社信仰が成熟するのは古墳時代から古代にかけてであると考えられているので、時の政治の中心であった近畿地方とりわけ山和に神奈備山が多いことは妥当であるとも解釈できる。しかし、近畿地方には、朝廷によって認知された式内社が多く、古文書も多く残されているから、神奈備山の発見が容易であることも解釈できる。アニミスティックな原始信仰をもとにした全国の式外社の多くに、神奈備山が祀られていたことが予想される。72ヵ所の神奈備山は氷山の一角なのである。

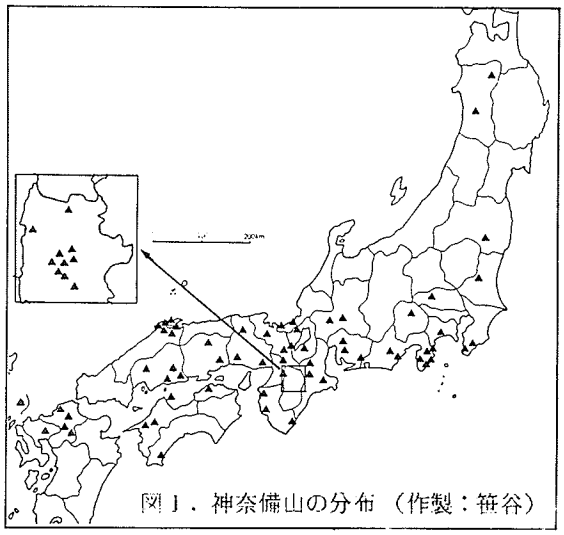


図1．神奈備山の分布（作製：笹谷）

表1．　神奈備山の一覧表

山名	県名	標高m	視点場（神社・祭祠場）	距離m	比高m	仰角°
黒又山	秋田	280.6	大湯環状列石1	2000	91.6	2.6
			〃　2	1950	91.6	2.7
神宮寺岳	秋田	277.4	神宮寺八幡神社	1175	249.4	12.0
建鉾山	福島	425.0	三森遺跡（祭祀跡・住居地）	475	97.0	11.5
			高木遺跡（　〃　）	225	85.0	20.7
長迫寺山	茨城	142.0	北若祭祀遺跡	125	52.0	22.6
御殿山	埼玉	343.4	金鑽神社	425	153.4	19.8
葵越山	千葉	70.0	葵越山神社	350	24.0	3.9
			葵越山神社遺跡	400	25.0	3.8
御手洗山	千葉	118.9	州崎神社	125	63.9	27.1
高麗山	神奈川	168.0	高来神社	325	148.0	24.5
三角山	福井	231.9	加茂神社	600	190.9	17.6
背葵山	福井	699.0	青海神社	3100	692.0	12.6
御室山	山梨	715.6	山梨岡神社	1250	437.6	19.3
御手洗	岐阜		真木倉神社			
釜ヶ谷山	岐阜	696.0	甘南備寺	1425	580.0	22.1
向山	静岡	227.2	多賀神社	750	207.2	15.4
			上多賀遺跡（祭祀跡）	875	207.2	13.3
大宮神社	静岡	115.0	上白岩遺跡（祭祀跡）	250	8.0	1.8
天神山	静岡		箕勾神社			
本郷富士山	静岡	191.0	意波与命神社	－	－	－
三倉山	静岡	214.0	加毛神社			
			洗田遺跡（祭祀跡）	1075	204.1	10.8
高草山	静岡	501.4	神神社			
虚空蔵山	静岡	126.0	那閑神社	200	111.0	29.0
石巻山	愛知	358.0	石巻神社（山麓）	1325	321.0	13.6
			石巻神社（山腹）	325	118.0	20.0
本宮山	愛知	292.8	大県神社	1175	214.8	10.4
尾張富士	愛知	275.0	大宮浅間神社	500	180.0	19.8
南宮山	三重	350.0	敢国神社	700	185.0	14.8
			大岩遺跡（祭祀跡）	700	170.0	13.6
神奈備丘	三重	199.3	猪田神社（猪田）	188	19.3	5.9
			猪田神社（下郡）	325	34.3	6.0
神山	三重	131.4	神山神社	425	101.4	13.4
仲山寺山	滋賀	388.6	大荒比古・稲荷神社	800	248.6	17.3
八王子山	滋賀	378.0	日吉神社	350	203.0	30.1
三上山	滋賀	432.0	御上神社	925	327.0	19.5
神奈備山	京都	286.9	河牟奈備神社	625	155.9	14.0
神山	京都	302.0	賀茂別雷神社	2125	214.0	5.8
甘南備山	京都	202.0	月読神社	3050	165.0	3.1
生駒山	大阪	642.3	住吉大社	18500	635.3	2.0
神鍋山	兵庫	469.0				
高取山	兵庫	320.1	長田神社	1900	302.1	9.0

山名	県名	標高m	視点場（神社・祭祠場）	距離m	比高m	仰角°
立岡山	兵庫	104.0	阿宗神社旧地	700	91.0	7.4
三笠山	奈良	297.0	春日神社	438	147.0	18.6
三室山	奈良	82.0	神岳神社	38	2.0	3.0
三輪山	奈良	467.1	大神神社	1025	369.1	19.8
			祭祀跡（馬場1）	1400	372.1	14.9
			祭祀跡（馬場2）	1250	357.1	15.9
			祭祀跡（三輪）	1425	367.1	14.4
鳥見山	奈良	245.0	等弥神社	750	135.0	10.2
耳成山	奈良	139.7	耳成山口神社	88	19.7	12.6
天香久山	奈良	152.0	天香山神社	175	44.0	14.1
畝傍山	奈良	199.0	畝火山口坐神社	300	112.0	20.5
雷丘	奈良	110.0	飛鳥坐神社	775	0.0	0.0
ミハ山	奈良					
姥山	奈良	260.0	大名持神社	175	90.0	27.2
篠葉山	和歌山	40.0	阿須賀神社	50	30.0	31.0
			篠葉山遺跡（祭祀跡）	100	35.0	19.3
大日山	和歌山	141.8	大日山1遺跡（祭祀跡）	650	134.8	11.7
大山	和歌山	112.1	法徳寺遺跡（散布地）	2075	109.1	3.0
篤山	島根	330.0	多気神社	2150	327.0	8.6
茶臼山	島根	171.5	真名井神社	500	146.5	16.3
朝日山	島根	324.0	祭祀遺跡（志戸）			
大船山	島根	327.0	多久神社	1025	269.0	14.7
仏教山	島根	366.0	曽根能夜神社	1475	346.0	13.2
弥山	島根	495.0				
神南備山	岡山	356.2	高野神社	2600	244.2	5.4
甲山	岡山	164.0	片山日子神社	550	156.4	15.8
黄葉山	広島	133.0	天別豊姫神社	200	115.0	29.9
三室山	広島	452.0	賀茂奈備神社	1000	347.0	19.1
			三室山磐座（祭祀跡）	900	297.0	18.3
大峰山	広島	289.4	大峰山遺跡（銅剣等出土地）	225	74.4	18.3
木ノ宗山	広島	413.1	木ノ宗山遺跡（銅鐸等出土地）	450	188.1	22.7
飯野山	香川	421.9	飯神社	550	306.9	29.2
神南山	愛媛	710.0	少名彦神社			
富士山	愛媛	320.0	少名彦神社			
香山寺山	高知	221.5	東神ノ木遺跡（散布地）	1375	216.5	8.9
宮地嶽	福岡	180.7	宮地嶽神社	375	145.7	21.2
剣岳	福岡	125.6				
砥上山	福岡	496.5	祭祀遺跡（山家長道）			
大神山	福岡	213.3	大己貴神社	875	155.3	10.1
春日山	佐賀	239.1	甘南備神社	625	194.1	17.3
鉢形山	長崎	51.0	天手長男神社ほか	－	－	－
八幡山	愛媛	213.0	大亀八幡大神社			

こういった、円錐形の山を背後に臨む祭祀場の歴史は以外と古く、縄文時代前期までさかのぼることができる。[7] 黒又山は、環状列石で有名な、大場の縄文遺跡の背後の神奈備山といえる。縄文人は、生産に直接かかわらない精神的な活動の場として、巨石を動かして祭祀場を造っていたのである。その活動は、弥生・古墳時代へと引きつがれ、古代に至ってようやく神社建築物が築かれて行くのである。

3．神社祭祀遺跡

神奈備山６０カ所，神社・祭祀遺跡７２カ所の地形占地を大別すると、図２・表２のように山頂、山腹、山麓、平地の４タイプに分類できる。山麓タイプは計３４ヵ所あり、最も一般的である。篠原によれば「神社は信仰の対象になっている神奈備山を仰拝するために、山麓に立地する。そしてこの位置は山体との一体感・合一感を得るための山腹に接するぎりぎりの所であるといえよう。」としている。[8] 山麓タイプはさらに平地と山地の境に立地するタイプと、山間の谷に立地するタイプに分けられるが、そのほとんどが前者である。神奈備山は平地から目だつことが重要であるから、表の平野側に多く立地すると考えられる。

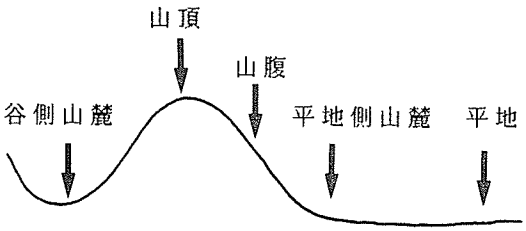


図２．神社・祭祀遺跡の地形占地

表２．神社・祭祀遺跡の地形占地

	神社	祭祀遺跡	計
山頂	3	0	3
山腹	5	3	8
平地側山麓	24	6	30
谷側山麓	4	0	4
平地	16	11	27
計	52	20	72

一方、神社等が山から引きをとって平地に立地する事例も２７カ所と多い。特に祭祀遺跡は、総数２０ヵ所中１１カ所の５５％が、山麓から距離をとっており、平地に立地する例が顕著である。

山頂・山麓の立地は、割合としては少ないが、重要な事例である。山腹立地の場合その多くが尾根の肩のテラスのように平坦な場所を利用して立地している。飯野山にある飯神社の社地は、古代には山頂にあったが、中古に山腹へ移り、さらにその後山麓に移された。[9] 畝傍山の畝火山口坐神社は、昭和１５年までは、山頂に立地しており、現在の西麓には御旅所があった。さらにそれ以前は現在の位置に鎮座していた。畝火山口坐神社の創祀は、飛鳥京・藤原京時代以前と予想されるが、その当初の位置は宮処からみて正面の東麓であったと予想されている。[10]

このように社地は時代と共に移動する点を配慮せねばならない。また比較的小さな神社でも、山頂より平地に向けて順に奥宮（山宮）、神社（里宮）、御旅所（田宮）の社地が複数設けられる事例がある。篠原は神奈備山の神社は山麓に立地することを標準としているが、そう言い切るには無理がある。[11] 確かに神奈備山の神社立地としてもっとも多いのは山麓であるが、それ以外の立地も一般的であった。社殿が築かれる前の祭祀場は、山から引きをとった高台の上に立地していて、神奈備山を仰ぎながら神向えの祭礼を行い、祝祭に饗ずることが一般的であったのではなかろうか。また、神向かえの祭りでは、山麓、山腹、山頂でも同時に儀式を行ったことも考えられよう。原始・古代人は、山頂・山腹のテラス、山麓、山麓を仰ぎ見やすい平地と、地形的な節目を捉えて祭祀活動を行ったのである。

4．神奈備山の景観のスケール

表１をもとに、平地タイプ・山麓タイプの神社・祭祀遺跡について水平距離、比高、仰角を求めた。平地タイプの水平距離は最小で１００m 最大で生駒山の１８．５km であった。生駒山の値だけが極端に大きく、住吉大社からあまりに離れ過ぎている。生駒山を住吉大社の神奈備山とする大和の説[12] には

疑問も残るので、この事例は分析から除外した。その結果平地タイプの水平距離の最高は３１００m その平均は１３２７m となった。山麓タイプの平均距離は１４２５m 以下であり、その平均は６１７m となった。どちらの結果からも、神奈備山は集落近くの身近な距離にある山であることが確認できる。そしてまた、水平タイプは山麓タイプのおよそ２倍の引きをとっていることがわかる。

比高の平均は、水平タイプが１８７.９m、山麓タイプが１９１.５mであり、両者に差はない。神奈備山の比高は９３%以上が４００m 以下であることがわかる。さらにいえば、神奈備山は、三輪山のように比較的大きな事例はまれであり、比高２５０m 以下が７５%以上を占めている。篠原の結果では、７３%が比高２００m以下となっており、[13]本分析の結果とほぼ一致している。

仰角の平均は、平地タイプで８.８°、山麓タイプで１８.３°であった。篠原の求めた神奈備山の仰角平均は１８.３°であり、[14]本分析の山麓タイプの仰角平均と一致している。篠原が分析した２２カ所の事例はほぼ全てが山麓タイプであるので、当然の結果である。（ただし、山頂から求めた仰角より、実仰角[15]の方がやや大きいと予想される。篠原の求めた実仰角の平均は２０.５°であった。）

山麓に立地した神社では「樋口が意味づけた仰角の分類に従えば、分布の集中する１２～３０°という値はもはやスカイラインには興味が集中せず、山腹のみが視線を引き付ける段階に相当する。」[16]のである。これに対し平地タイプは８９%が１４°以下の仰角であった。平地タイプの仰角の分布は３°と１０°に２つのピークがある。樋口によれば９°前後の仰角はスカイラインと山脈を交互に見れるから、山容全体を見越せる最も望ましい仰角とされている。[17]５°以下は、スカイラインが視覚的に卓越した重要性を持つ距離とされている。神奈備山の場合は、水平距離がおおむね２km以下とスケールが小さいので、仰角５°以下でも山腹の樹冠にも注意が引き付けられやすいと考えられる。平地タイプの神社・祭祀遺跡は、神奈備山を眺望する理想的な引きをとって立地していたのである。

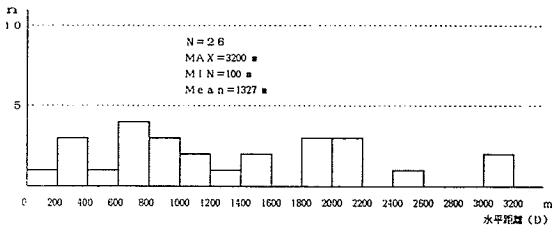


図３．平地立地タイプの神奈備山の水平距離の頻度分布

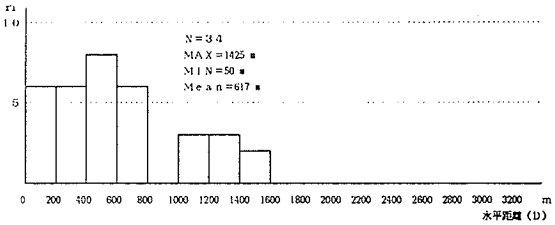


図４．山麓立地タイプの神奈備山の水平距離の頻度分布

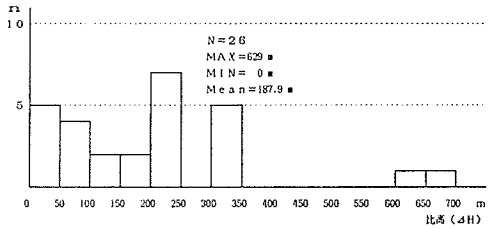


図５．平地立地タイプの神奈備山の比高の頻度分布

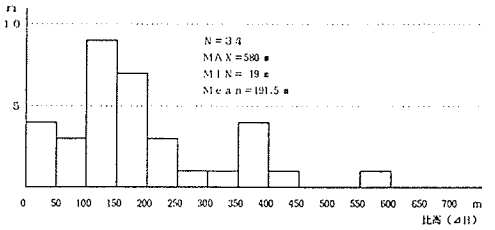


図６．山麓立地タイプの神奈備山の比高の頻度分布

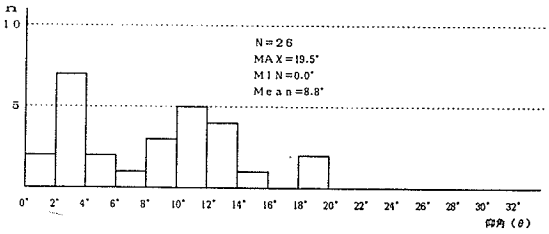


図７．平地立地タイプの神奈備山の仰角の頻度分布

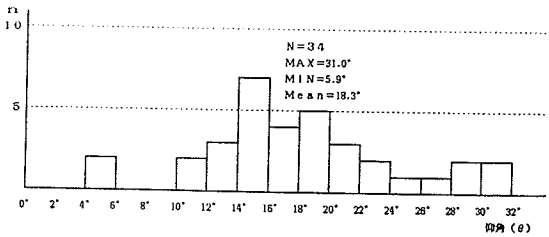


図８．山麓立地タイプの神奈備山の仰角の頻度分布

５．神奈備山の地形類型

６０カ所の神奈備山と、神社・祭祀遺跡を横断する断面図を分類すれば、神奈備山は表３のように４つの地形タイプに分けられる。孤立丘型は、平地に立地する残丘であり、どちらの方向からみても笠型に見える山である。写真１の畝傍山はその代表例であり、近辺から良く目だつ。

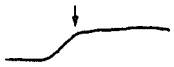
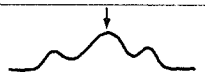
端山型は、平地に張り出した山地の端部が、明確な山頂を有している地形タイプである。平地部からはおおむね笠型に見える。写真２の八王子山はその代表例である。引きをとって八王子山を見れば、その山体は名峰比叡山のスカイラインの下に見えるため、目だたなくなるが、そのような低山でも古代人はそこに神の降臨を見いだしたのである。

尾根肩型はあまり明確な山頂を持たないが、肩が張った尾根を、その延長方向から見上げるために、笠型の山体に見えるのである。写真３の三輪山はその代表例である。

山塊型は、尾根・谷が複雑に入りくんだ小山塊であり、地形図上は円錐形の等高線は認めがたい。しかし、平地からみれば尾根の重なりによって、あたかも笠型であるかのように見える山である。写真４の山城の甘南備山がそれに該当する。なだらかな尾根が広がる丘陵地にあるから、現代人の目には甘南備山の山頂は目にとまりにくい。しかし、甘南備山は、ちょうど平安京の朱雀大路を南進した線上に位置しており、都城の占地に重要な山だったのである。

従来神奈備山は孤立丘型と尾根型の２つの地形タイプに分類されていた。しかし、４つの類型の方が断面型の模式化に適している。これらの神奈備山は、４つの類型いずれもが一つの地形景観単位として古代人に認識されてきた。神奈備山と呼ばれる単位は、一つの残丘であったり、一つの尾根であったり、多くの尾根で構成された小山塊であった。

表３．神奈備山の地形類型

類型	事例数	断面模式図
孤立丘	１８	
端山	２１	
尾根肩	１０	
山塊	１１	
計	６０	

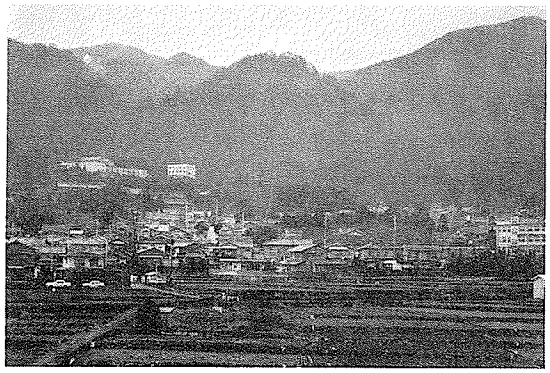


写真２．八王子山(撮影：笹谷,1987.1.3)

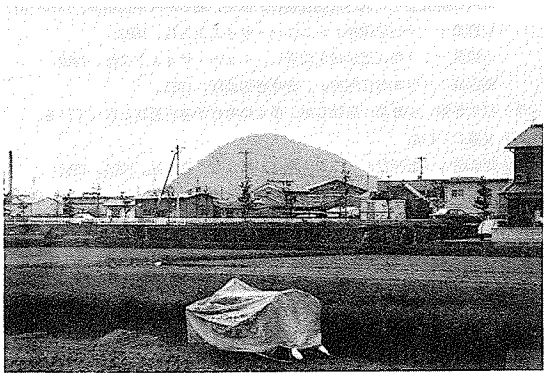


写真１．畝傍山(撮影：遠藤,1986.11.8)

写真３．三輪山(撮影：遠藤,1986.11.8)

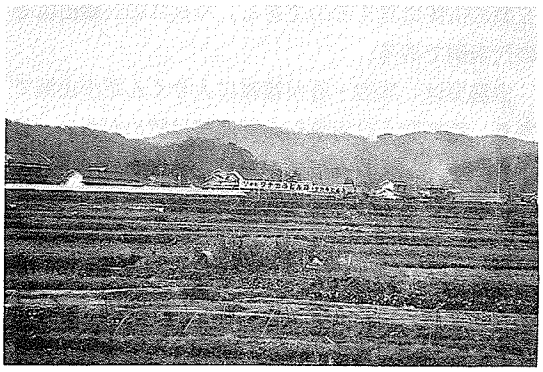


写真４.甘南備山(撮影：笹谷,1987.1.4)

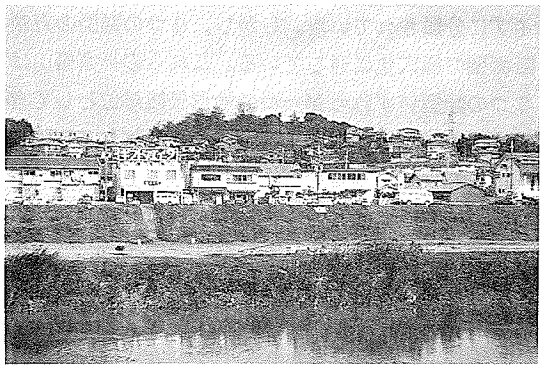


写真５.南西より見た三室山(撮影：笹谷,1987.1.4)

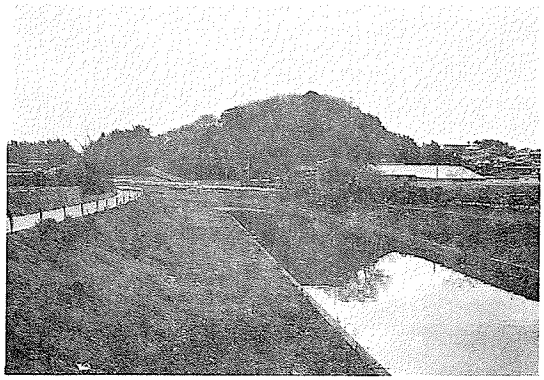


写真６.北東より見た三室山(撮影：笹谷,1987.1.4)

６．結語

三輪山、大和三山、三上山など著名な神奈備山は現在でも名山として知られているが、多くの神奈備山は人々にはほとんど注目されていない。神奈備山の地形と緑は、神社所有の鎮守の杜として保全はされている例も多いが、破壊されている例もある。三室山は、ＪＲ線王子駅から近く、大阪への通勤に便利な場所に立地していた小丘であったから、山の南側と西側の斜面は写真５のように頂上近くまで住宅地化されていった。南側・西側からみれば山の存在を認めることすらしがたい。幸い、北東の龍田川沿いは写真６のように保存されているが、これが和歌で有名な山かと嘆きたくなるのが実状である。現在の土工技術からみれば簡単に破壊できるぐらいの小さな山でも、神奈備山として再発見できる山は全国に数多く埋もれている。

神奈備山は神社や祭祀遺跡とセットになって、古代人にとっての聖なる場所とされてきた。このセットとは、古代人が大切にした地形という名の隠れた文化遺産・文化財であるともいえる。文化遺産は歴史の中に忘れ去られたから、破壊してよいというわけにはいかない。特に環境としての文化遺産は、無意識のうちに受け継がれてきた場所に対する作法である。笠型の山体、それを眺望し、それと一体になれる神社や祭祀遺跡、それらのまわりの見通しのよい平地、といったもろもろの落ち着いた里山の風景は、我々日本人の心を今もなごませてくれるのである。

文献・注

１）大場磐雄：「祭祀遺跡」，角川書店，P204，1970.

２）文献１）P17.

３）文献１）P18-19.

４）樋口忠彦：「景観の構造」，技法堂出版，1975.

５）篠原修：「景観のデザインに関する基礎的研究」，東京大学博士論文，P119-149，1979.

６）大場磐雄：「祭祀遺跡」，角川書店，1970.
大場磐雄：「大場磐雄著作集」第４・５巻，雄山閣，1975-'76.
谷川健一編：「日本の神々」第１～１２巻，白水社，1984-'87.
式内社研究会：「式内社調査報告」各巻，皇学館大学出版部，1976-'87.
小野真一：「祭祀遺跡」，ニュー・サイエンス社，1982.
小野真一：「祭祀遺跡地名総覧」，ニュー・サイエンス社，1982.
菱沼祐：「日本の自然神」，有峰書店新社，1985.

７）江坂輝彌、小野真一をはじめ、多くの考古学者の通説となっている。

８）文献５）P141

９）津森明：「飯神社」『日本の神々』第２巻，白水社，P204，1984.

１０）木村芳一：「畝火山口坐神社」『日本の神々』第４巻，白水社，P280-281，1985.

１１）文献５）P148-149.

１２）大和岩雄：「磐船神社」『日本の神々』第３巻，白水社，P204，1984.

１３）文献５）P143.

１４）文献５）P147.

１５）対象となる山の書割線上の最大仰角。

１６）文献５）P148.

１７）文献４）P62.